

## 広州日本人学校における総合的な学習の時間の実践

前広州日本人学校 教諭

埼玉県さいたま市立岸町小学校 教諭 保 科 優 太

**キーワード** 在外教育施設、広州日本人学校、総合的な学習の時間、国際教育、交流学習

赴任校の概要

広州日本人学校

広州日本人外籍人員子女学校

### 1 はじめに

この度、在外教育施設で教鞭をとる機会をいただいた。国際社会のボーダーレス化が進む中、これから未来を生きる子どもたちには、グローバルな視野をもち、コミュニケーション能力や協調性、国際社会の課題解決に必要な資質能力が求められている。そこで、国際人材の育成のために、広州日本人学校において在外教育施設の特性を生かした総合的な学習の時間の実践をした。その取り組みを紹介したい。

### 2 授業実践

#### (1) 学習の見通しと学習計画

3年生の総合的な学習の主題は、「国際社会と関わろう」であった。すぐに国際社会全体と関わるのは難しいため、子どもたちにとって1番身近な「中国」と関わることを第1歩とし、1学期の学習テーマを「日本と中国の架け橋になろう」と設定した。架け橋になるためには「お互いのことをもっと知り、コミュニケーションをとらなければならない」という意見が子どもたちから出てきたので、「日本について知り、現地校の東風东路小学交流会で中国の子どもたちに日本によさを伝えよう」という学習課題にした。

#### (2) 現地校との交流学習

日本のすばらしい「遊び」「食べ物」「場所」「行事」の4つのカテゴリの中から、自分が伝えたいことを選び、情報を収集して、資料をまとめた。中国語の授業との連携を図り、プレゼンの練習を中国語で行い、中国の子どもたちに日本のすばらしさを伝えた。また、日本によさを伝えるだけでなく、日本の伝統文化と一緒に体験したり、子どもたちが考えたゲームを中国語で一緒に行ったりした。交流が終わった後には「日本のよさを伝えることができた」「今度は中国のすばらしいところを調べてみたい」「架け橋の一歩目を踏み出すことができた」など、学びの成果を「実感」する姿が多く見られた。



#### (3) 新たな課題設定

前回の学習を終えた振り返りでは「中国のことをもっと知ることが大切」「日本を知って、日本によさを伝えるだけでは、架け橋はまだ作れて

ない!」という意見があった。そこで1学期後半は「中国について知り、交流会で中国のよさを伝えよう」という学習課題を設定し、学習を進めた。情報を集める際には、現地の事務スタッフにインタビューをして、詳しい情報を現地の人の声で収集した。その後、まとめ方を一人ひとりが選択し、学習成果をまとめた。

学習の過程において「中国のすばらしさを日本人に伝えて、中国がすばらしい場所ということを理解してほしい」という意見が出てきたので、身近な保護者の方々に発信することで中国のすばらしさを知ってもらうという学習計画を立てた。交流が終わった後には「自分たちにはできることがまだいっぱいある」「中国に住む私たちだからこそ、伝えなければならない」など、次の学習を見通している姿が見られた。

#### (4) 日本の学校との交流学習

2学期は「日本に住んでいる人は中国の事をどう思っているのか?」というアンケートから授業を始めた。「日本に住んでいる人の中国に対するイメージを変えるために、私たちが住む広州のよさを日本的小学生に伝えなきゃ!」「中国に住む僕達だからこそ、できることだ!」という意見から、学習課題を「私たちが住む広州のよさを日本的小学生に伝えよう」と設定した。1組は「広州日本人学校のすばらしさ」「広州の自然のすばらしさ」「広州の生活の便利さ」「広州タワーのすばらしさ」「飲茶のすばらしさ」の5つのテーマに分かれ、グループで調べ活動を行い、情報の整理、情報のまとめを行った。



交流後には、「日本の小学生に広州のすばらしさを伝えることができて大きな達成感がある!」「日本の小学生が広州や中国の魅力を知って、その魅力を他の人に伝えてくれたら日本と中国の架け橋はつながる!」などと学びを振り返っていた。

#### (5) 学習のまとめ

1学期から、日本、中国、広州、世界の国々などの文化について調査し、理解を深めてきた。そして調べたことを、分析・整理し、中国の学校の子どもたち、保護者の方々、日本の学校の子どもたち、広州日本人学校の児童生徒に発信してきた。

1年間かけて「世界の人々とつながろう」という課題を達成するために、各教科の学びを生かして学びを進めた。3学期は「世界の国々について知り、世界のすばらしさをみんなに伝えよう」と学習課題を設定した。発信する場として、最後の授業参観、学校全体を巻き込んで「世界架け橋フェスティバル」を実施した。発表を聞いた児童生徒、保護者は世界各国の素晴らしさを知るだけでなく、3年生の学びの成長した姿に驚いていた。3年生の児童は1年間の学びを振り返り、この広州日本人学校だからこそできる「学び」に充実感や達成感を感じているようであった。

#### (6) 学習を終えての児童アンケート結果

国際人材育成に求められるグローバルな視野をもち、コミュニケーション能力や協調性、国際社会の課題解決に必要な資質能力などを伸ばすことができたか、また教材の本質的な部分を意識的に獲得していることを児童のアンケート結果を用いて、調査・分析することにした。まずは、図1のアンケート結果を見ていただきたい。学びの根底には、学びの楽しさがある。楽しみながら学習をすることができていたかという質問項目に関しては100%の肯定的な回答が得られた。学ぶ過程の中で、楽しみながら学習していたことがよく分かった。

次に、図2・図3のアンケート結果に関してである。楽しいだけでなく学び過程の中で、児童の中に学んだものはあったのか、自分の成長を感じ自分でどんな学びがあったのか調査した。アンケートの結果から、

肯定的な回答が100%だったので、学びの楽しさを味わいながら、自分の成長を実感していることが分かった。図3をみると、児童が自分の中でどんな資質能力を伸ばすことができたのか客観的に自らを振り返っていることがよく分かる。

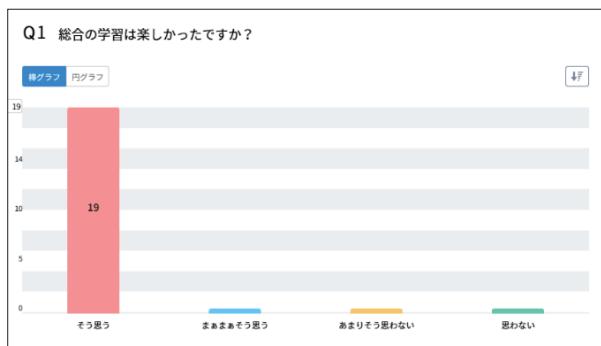


図1 質問事項1「総合的の時間は楽しかったですか？」

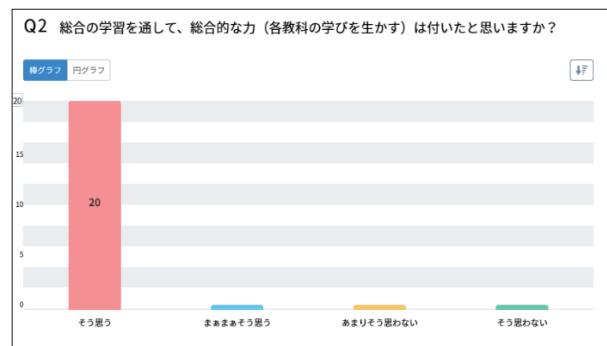


図2 質問事項2「総合的学習を通して、総合的な力は付いたと思いますか？」

3年生になって、総合的な学習の授業を通して、どのような力を伸ばすことができましたか

- ・まとめる力や、チームで協力したり聞いている人の前で相手のことを考えて話したりする
- ・資料を作ったりして相手に伝わることを意識したところ
- ・最初しりょうをいっぱい集めたり、相手がとても見やすいようにつくる力がつきました。
- ・詳しく相手にしっかり伝わるように発表する力や資料を作る力、詳しく読む力が付いたと思います。
- ・みんなでまとめて相手に伝える力（中国語でも）
- ・自分たちで日本や中国、世界の事をインタビューしたり、インターネットネットで詳しく知る事ができたり力が付いた

図3 質問事項3「3年生になって、総合的な学習の授業を通して、どのような力を伸ばすことが出来ましたか」

### 3 おわりに

国際人材の育成のために、広州日本人学校において在外教育施設の特性を生かした総合的な学習の時間の実践を行った。国際人材に求められるグローバルな視野をもち、コミュニケーション能力や協調性、など国際社会の課題解決に必要な資質能力を総合的な学習の時間を中心に、身に付けることができていたという事がこの結果から言えるだろう。今後も総合的な学習の時間のみならず、カリキュラムマネジメント、教科横断的な学びの視点をもちながら日本の公立学校の中でも国際人材の育成に貢献していきたい。